

"The Adventures of Tom Sawyer" No.2

"Judge Thatcher said it was a noble, a generous, a magnificent lie."

Mark Twain

「トム・ソーヤの冒険」No.2

「サッチャー判事はいった。それは気高くて心の広い、素晴らしい嘘だ、と」

マーク・トウェイン

これはサッチャー判事が、娘のベッキーから自分の受けるべき罰をトムが代わって背負ってくれたことを打ち明けられたとき、感激して言った言葉です。

ベッキーとトムはよく喧嘩をしますが、トムはベッキーが大好きです。ある日ベッキーは休み時間にたまたま教室で一人になりました。ふと見ると、いつも先生が大事そうに見ている本の入った先生の机の引き出しの鍵が開いています。つい誘惑に負けてそっとその中の本を取り出して開いたところへトムが入ってきたので、あわてたベッキーは本のページを破いてしまいました。優等生のベッキーは先生に叱られたことがありません。そのあと彼女が先生に問い詰められそうになっておびえているのを見たトムは、とっさに自分が名乗り出て罪をかぶり、鞭打ちと居残りの罰を受けたのでした。でもトムは、ベッキーが自分の帰りをそっと待っていることを知っていたので罰も苦にならず、"Tom, how could you be so noble!" と感謝されて大満足でした。



さて、話はまだ続きます。サッチャー家は村の名門なので、ベッキーは母親にせがんで村じゅうの少年少女たちをピクニックに招待しました。行く先は渡し船で5キロほど川を下ったところにある谷あいの森です。親の代りに、20歳前後の若い男女が数人付き添いました。食事の後みんなで洞窟に入ることになり、ろうそくを持って何組かに分かれて入りましたが、トムとベッキーは奥まで行きすぎてみんなにはぐれ、取り残されてしまいました。ところが付き添いの青年たちは点呼を怠ったため、二人がいけないのに気づかず、さらに、その晩二人はよその家に泊まることになっていたため、サッチャー判事を始めとする救助隊が駆けつけたのは翌日遅くなってからでした。必死の捜索にもかかわらず、二人は見つからないまま何日も過ぎました。

トムとベッキーは真っ暗な洞窟の中で飢えに苦しみ、しかも、狂暴な悪党に出くわすという危険に会いながらも、けなげに耐えました。トムは冷静さを失わず、まず水場を確保して行動するなど生き延びる方法を考えてベッキーを励まし、ようやくミシシッピー川のはるか川下の川辺に抜ける道を見つけ、通りがかりの船に救助されました。

馬車で送られてきた二人を迎えた村は、お祭りのような騒ぎになりました。サッチャー判事は、もしトムがふつうの少年(a commonplace boy)だったら、とてもベッキーを助け出すことはできなかっただろう、といてトムを賞賛しました。

ベッキーが、自分の罪を引き受けてくれたトムの犠牲的な行為を打ち明けたのはそのときでした。そこでサッチャー判事ははいよいよ感激してトムの嘘をほめたたえ、さらに、「トムの嘘はジョージ・ワシントンが桜の木を切ったときに正直に告白した話と並んで後世にまで残る偉大な嘘だ」とまで言っているのです。

最後に、この物語の結末は、トムと冒険仲間である家なしのハック(ハックルベリー・フィン)が、洞窟の中で、悪党が盗んで隠しておいた金貨を見つけて大金持になるという、いかにもゴールド・ラッシュの時代らしい大団円になっています。